



変化を楽しむ人であれ

京都橘大学

京都橘大学 コメンテーター一覧

2023年4月版

〈お問い合わせ〉
京都橘大学 広報課
TEL : 075-574-4112(直通)
Eメール : pub@tachibana-u.ac.jp

— 目次 —

歴史	P 2
考古学	P 2
日本史	P 2
国際	P 3
英文学	P 3
経済	P 4
医療経済・地域経済・金融	P 4
観光ビジネス・国際経済	P 6
キャリアデザイン・サブカルチャー	P 8
経営・企業・都市	P 9
マネジメント・アントレプレナーシップ・アクティブラーニング	P 10
文化芸術・地方創生	P 11
工学	P 12
情報工学	P 12
建築	P 14
自然環境	P 15
防災・減災	P 15
医療	P 16
看護	P 16
心理	P 17
理学療法	P 18
作業療法	P 19
救急医学	P 21
臨床検査	P 23

本学教員の情報はホームページでもご覧いただけます。

<https://kenkyu.tachibana-u.ac.jp/ktuhp/KgApp>



考古学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

中久保 辰夫 (ナカクボ タツオ) 遺跡発掘で古代の食文化を探求



- ①文学部 歴史遺産学科
- ②准教授
- ③博士 (文学)
- ④考古学／日本史、古墳・集落遺跡、発掘調査、土器、古代の暮らし
- ⑤大阪大学大学院修了

近畿エリアを中心に、古墳や集落遺跡の発掘調査を精力的に実施。特に土器の使用痕跡を分析することで、古代の食を復元する研究を行っており、古代の人々の生活や食器文化、食文化に精通している。

<一言コメント>

古墳・集落遺跡の発掘調査の成果解説や古代文化・生活・食などについてのコメントが可能です。

日本史

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

後藤 敦史 (ゴトウ アツシ) 世界史からひも解く日本開国の意義を研究



- ①文学部 歴史学科
- ②准教授
- ③博士 (文学)
- ④日本史、日本近代史、幕末史／幕末政治、開国、海防、大阪湾台場
- ⑤大阪大学大学院修了

世界史からみた日本の開国史をテーマに研究。日本の資料と海外の資料を合わせて、その意義を探っている。

2022年からは高校で「歴史総合」の授業が開始予定だが、これは世界と日本の近現代史であり、その先駆けともいえるテーマといえる。

<一言コメント>

大阪湾には当時の「台場」の遺構が残っており、これを通じて幕末史のおもしろさを広めたいです。

英文学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

アンガス, ノーマン (ANGUS, Norman) スコットランド独立運動と詩人の関わりについて研究

①国際英語学部 国際英語学科

②教授

③修士

④文学、英文学、翻訳/

スコットランド独立運動、スコットランド文学、マイノリティ言語

⑤ケンブリッジ大学大学院修了

スコットランドの独立運動や文化的アイデンティティと、詩人たちとの関わりについて研究を行っている。また、日本の詩歌（古典と近現代詩）を継続的に翻訳している。マイノリティ言語についても関心を持っている。

<一言コメント>

マイノリティ言語や死語が世界的に問題となっているにも関わらず、その深刻さはあまり知られていないため、その研究の必要性を感じています。

医療経済・地域経済・金融

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

高山 一夫 (タカヤマ カズオ) **米国の医療政策を深く研究、日米比較も**



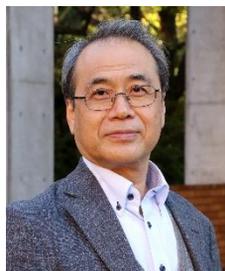
- ①経済学部 経済学科 (経済学部長)
- ②教授
- ③博士 (経済学)
- ④経済学 / **米国の医療政策・医療経済・医療産業**、日米の医療制度比較
- ⑤京都大学大学院修了

米国の医療政策と医療経済、医療産業を、日米比較も念頭に置きながら研究。**特に米国独自の病院業に関する研究を進めており、バイデン新政権下における医療政策、社会保障政策への変化も視野に入れつつ、国内でも医療面から見た現代社会の諸問題を考察。**

<一言コメント>

コロナ禍で注目される医療施設の経営や課題、医療政策、社会保障政策などについてコメントできます。

岡田 知弘 (オカダ トモヒロ) **地域経済研究のエキスパート**



- ①経済学部 経済学科 (地域連携センター長)
- ②教授
- ③博士 (経済学)
- ④地域経済学 / **地域開発・地域づくり、地域内経済循環**
- ⑤京都大学大学院修了

地域経済や地域づくりの研究を40年行ってきたエキスパート。
 地域経済・社会を形成する**中小企業、農家、地方自治体の再投資力と地域内経済循環をつくることで、地域づくりや災害復興が進むことを明らかにしている。**

<一言コメント>

災害復興やコロナ禍における政策対応などについて、委託研究や講演なども多く行っています。

医療経済・地域経済・金融

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

矢口 満 (ヤグチ ミツル) **メガバンク・グループで30年金融調査に携わったプロ**



- ①経済学部 経済学科
- ②教授 (証券アナリスト、国際公認投資アナリスト)
- ③学士 (経済学)
- ④国際金融論、ファイナンス/サステナブル・ファイナンス、グリーンボンド、欧州の金融・経済
- ⑤京都大学卒業

2021年春までメガバンク・グループで金融調査業務に携わってきた。中でも欧州通貨統合や欧州中央銀行に強く、最近ではEUが世界的に先行しているサステナブル・ファイナンスを探究中。

<一言コメント>

ドイツ駐在経験もあり、欧州の金融や経済事情に精通していますので、的確な解説が可能です。またこれまでのキャリアを踏まえ、メガバンクの本音を「内部の眼」で説明することもできます。

近藤 隆則 (コンドウ タカノリ) **金融の根底にある行動経済学・人間学を掘り下げる**



- ①経営学部 経営学科
- ②教授
- ③博士 (商学)
- ④金融論、行動経済学/
**金融の根底にある人間学、政府の金融システムへの関与の効果
 日本の家計の金融行動**
- ⑤一橋大学大学院修了

金融機関や政府に大きく依存している金融システムは、それを動かす人間の行動そのものが重要であり、行動経済学やさらに幅広い人間学を掘り下げることで、人間の金融行動を実証的に明らかにすることに関心を抱いている。

<一言コメント>

今日、コロナ禍対策を名目にして、ゼロゼロ融資などの企業支援が政府によって行われています。こうした支援は過大になりがちで、金融機関のリスク管理能力を鈍麻させ、中小企業の活力低下につながる可能性があります。

観光ビジネス・国際経済

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

金武 創 (カネタケ ハジメ) **“保護”から“活用”に変化しつつある芸術文化資源**



- ①経済学部 経済学科
- ②教授
- ③博士 (経済学)
- ④文化経済学/文化遺産観光、文化政策
- ⑤京都大学大学院修了

日本の文化庁が、文化財保護から、芸術文化資源活用を目指す**文化政策へ転換**してきている点に注目し研究。
 文化遺産を中心とする**京都観光**について、**駅から徒歩で周遊できる有形・無形の文化遺産ルートの構築手法**も検討中。

<一言コメント>

コロナ禍における観光の在り方は興味深く、自治体ごとに対応が異なることもあり、要注目。

福井 弘幸 (フクイ ヒロユキ) **コロナ禍で揺れる五輪効果も研究**



- ①経済学部 経済学科
- ②准教授
- ③修士 (都市ビジネス)
- ④観光学/観光ビジネス、インバウンド、スポーツツーリズム
- ⑤大阪市立大学大学院修了

with/afterコロナの観光のあり方を探究している。また、世界的にオリンピック開催の負の影響を懸念し、開催地に立候補する都市が減少している中、**東京開催に続き札幌市 (2030年冬季) が開催地に立候補する**という、その効果や課題について研究中。

<一言コメント>

with/afterコロナの新たな観光ビジネスのスキームを探っています。

ランビーノ, パラガス (LAMBINO John XXV Paragas) **フィリピン出身の国際政治経済学者**



- ①経済学部 経済学科
- ②准教授
- ③博士 (経済学)
- ④国際政治経済学/フィリピン社会経済、東南アジア経済
- ⑤京都大学大学院修了

フィリピン北部バングサナン州生まれ。「フィリピンをベースとした地域及び地域経済の再検討」「フィリピン経済の国内再投資力」「グローバリゼーションとフィリピン人の国際移動」などの論文実績、「アジアからの戦略的思考と新地政学」など共著での書籍実績を多数有する。

<一言コメント>

近年、地政学的に注目されている**フィリピン**に関して、**国際政治経済学の立場から日本語での取材対応・コメントが可能**です。

観光ビジネス・国際経済

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

小山 大介 (コヤマ ダイスケ) **企業動向から貿易問題まで語れる若手経済学者**



- ①経済学部 経済学科
 - ②准教授
 - ③博士 (経済学)
 - ④国際経済学/**多国籍企業**、グローバル経済、**企業の海外進出**
 - ⑤京都大学大学院修了
- 経済のグローバル化により、さらに複雑になった**日本企業の海外事業展開**や、**多国籍企業の動向**をウオッチ。また政治・外交の影響を受ける**日米、日中貿易問題**なども継続的に探究中。

<一言コメント>

グローバル時代、ポスト・コロナ時代における地域経済の持続的発展の可能性を探っています。

下門 直人 (シモカド ナオト) **なぜ多くの日本企業はインド進出で苦戦するのか**



- ①経営学部 経営学科
 - ②講師
 - ③博士 (経済学)
 - ④経営学/**インド経済**、マーケティング論、流通論、**新興国市場論**、**協同組合論**、**ソーシャル・ビジネス**
 - ⑤京都大学大学院修了
- インドを対象とし、農村の貧困問題**をはじめとした**社会的課題はビジネスを通じて解決し得るのか**という点から現地の協同組合や多国籍企業を事例とし研究を進めている。

<一言コメント>

長期的成長を続けるインドは日本企業にとって重要な市場になりつつあります。一方で、**東アジアや東南アジアに比べインドでは多くの日本企業が苦戦**しています。そのようなインドに進出した**日本企業の事例研究**からは様々な示唆が得られます。

キャリアデザイン・サブカルチャー

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

乾 明紀 (イヌイ アキリ) **より有効なキャリアデザイン支援を考える**



- ①経済学部 経済学科
- ②教授
- ③修士 (人間科学)
- ④社会心理学/探究学習、キャリア教育、トランジション
- ⑤立命館大学大学院修了

社会の「当たり前」が揺らぎ、若者にこれまでなかった選択肢や機会が与えられる一方で、**<学校から仕事へ> <子どもから大人へ> の移行が複雑**になっている。その移行支援策である**探究学習**や**キャリア教育**について実践的・実証的に研究している。

<一言コメント>

教員が一方的に知識を伝える伝統的な教育スタイルだけでは探究学習やキャリア教育は成立しません。学習者自身が環境を変え、自ら将来を展望していけるようなキャリアデザイン法を研究しています。

牧 和生 (マキ カズオ) **サブカルチャーやオタク文化における経済学的な研究**



- ①経済学部 経済学科
- ②准教授
- ③博士 (経済学)
- ④行動経済学、現代アニメ文化論/サブカルチャー、日常系アニメ
- ⑤青山学院大学大学院修了

サブカルチャーの中でも比較的新しい**アニメコンテンツ消費**や**コンテンツツーリズム**などを**中心に研究**。同じコンテンツのファン同士が対立する現象も消費の心理面からアプローチしている。

<一言コメント>

男女問わずオタクと呼ばれる人の消費やこだわりについて理解しています。趣味として消費している財やサービスなども魅力的な研究対象となります。

経営・企業・都市

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

松石 泰彦 (マツイシ ヤスヒコ) **社会課題に向き合う企業の姿を追う**



- ①経営学部 経営学科 (経営学部長)
- ②教授
- ③博士 (社会学)
- ④経営史、企業論/CSR、SDGs、企業城下町史、企業と社会課題解決
- ⑤一橋大学大学院修了
 中小企業が町や地域に影響を与えてきた**企業城下町史**を通じて、**企業と社会のつながり**を研究。またSDGsに対応する**サステナブルな企業の戦略事例**も追究。

<一言コメント>

ビジネスと社会課題解決を両立できる新しいCSRの姿を検証・追究しています。

平尾 毅 (ヒラオ タカシ) **イノベーション研究で組織改革の糸口を**



- ①経営学部 経営学科
- ②教授
- ③博士 (商学)
- ④経営史、イノベーション論/組織、制度変化、アントレプレナーシップ
- ⑤一橋大学大学院修了
 イノベーションの**成立過程**を歴史的に研究。人々の間で**共通認識**として**社会的現実**がつくられる**プロセス**の考察を通じて、**クリエイティビティ**の向上や**ビジネス課題解決**のきっかけを目指す。

<一言コメント>

イノベーション・プロセスは、各国制度の**ダイバーシティ**をより深く理解するのに役立ちます。

マネジメント・アントレプレナーシップ・アクティブラーニング

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

仙波 亮一 (センバ リョウイチ) **非建設的行動の低減に有効なサポートを研究**



- ①経営学部 経営学科
- ②准教授 (社労保険労務士、行政書士、シニア産業カウンセラー)
- ③博士 (マネジメント)
- ④経営学、組織行動論/ハラスメント、対人関係からの撤退、自己愛
- ⑤広島大学大学院修了

ハラスメントや対人関係からの撤退に代表される従業員の非建設的行動について予防的観点から研究。また最近では、アンガーマネジメントプログラムの有効性についても研究している。

<一言コメント>

従業員それぞれの自己愛タイプに合致した教育・指導法を探索。ストレスの多い現代社会の課題の解決を目指しています。

丸山 一芳 (マルヤマ カズヨシ) **地域産業活性化で期待されるオープンファクトリーに注目**



- ①経営学部 経営学科
- ②教授
- ③博士 (知識科学)
- ④経営学、ベンチャー企業論、イノベーション論/イノベーション、伝統産業、起業家
- ⑤北陸先端科学技術大学院大学修了

人と組織的プロセスに着目して、アントレプレナーシップとイノベーションを研究。また中小企業が連携して取り組んでいる新たな地域活性化施策「オープンファクトリー」に注目し、全国で調査している。

<一言コメント>

起業支援実務や起業コンテスト審査の経験を踏まえて、ベンチャー企業について考察することができます。

西野 毅朗 (ニシノ タケロウ) **双方向性のある効果的な教育についての研究**



- ①経営学部 経営学科
- ②准教授
- ③博士 (教育文化学)
- ④教育学、高等教育論、教育工学/
ゼミナール教育、卒業研究教育、アクティブラーニング
- ⑤同志社大学大学院修了

大学における教育改革や教育改善を実現していくための研究をしている。教員が一方通行で話すだけの伝統的な講義法から、双方向性のある効果的な授業づくりについてFD・SD活動をしたり、高等教育機関で講演やワークショップを行っている。

<一言コメント>

近年は、日本の教育法でもあるゼミナール教育や卒業研究教育の可能性に注目しています。

文化芸術・地方創生

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

阪本 崇 (サカモト タカシ) **市場評価以上の価値を持つ教育・文化芸術・医療**



- ①経済学部 経済学科
- ②副学長 教授
- ③博士 (経済学)
- ④財政学、文化経済学/
ボーモルのコスト病、芸術文化支援の根拠と所得連動型教育ローン
- ⑤京都大学大学院修了

アメリカの経済学者W.J.ボーモルが展開した「コスト病」の理論は、**教育や芸術文化、医療などは、生産の技術的特性から生産費が高騰するという性質があることを示している。**しかし、これらの財・サービスは**人々の生活に不可欠なものであり、そこに資源を投入していく必要がある。**それを実現する方法のひとつとして、**所得連動型教育ローンに注目している。**

<一言コメント>

所得連動型教育ローンのしくみは、日本学生支援機構の貸与型奨学金にも取り入れられるようになっています。

木下 達文 (キノシタ タツミ) **文化芸術による教育支援・地域創生のプロ**



- ①経営学部 経営学科
- ②教授
- ③修士 (美学美術史)
- ④文化政策、文化資源論、文化施設マネジメント論、展示メディア論/
地域創生、博学連携、商品開発
- ⑤成城大学大学院修了

地域の様々な資源を再評価し、地域の魅力向上をはかっていくための研究とプロジェクト実践を多数展開。現在は、**アートプログラムを通じて美術館と学校・フリースクールを繋げる事業と、安土城再建（滋賀中核観光拠点整備）のプロジェクト等**に関わっている。

<一言コメント>

文化施設や博覧会等をプロデュースしていた経験を活かし、**授業では本格的な商品開発やイベント実践に繋げる試み等を多様に行っています。**

情報工学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

東野 輝夫 (ヒガシノ テルオ) 日本を代表するIoT推進の担い手



- ①工学部 情報工学科 (工学部長)
 - ②副学長 教授
 - ③博士 (工学)
 - ④情報ネットワーク/モバイルコンピューティング、IoT、センシング
 - ⑤大阪大学大学院修了
- スマホやモバイルを活用したヒト・モノの位置行動推定や状況把握技術、災害支援や交通、健康・医療関連ICTの研究を推進している。Society5.0社会に寄与する様々な課題解決に向けた技術開発に携わる。

<一言コメント>

日本学術会議会員や情報処理学会副会長を歴任し、**現在も文部科学省Society5.0実現化研究拠点支援事業「ライフデザイン・イノベーション研究拠点 (大阪大学受託)」の研究開発課題責任者を兼務**しています。

片岡 裕介 (カタオカ ヨウスケ) 地理的空間情報の可能性を探る



- ①工学部 情報工学科
 - ②准教授
 - ③博士 (環境学)
 - ④空間情報科学、都市解析/地理情報システム、危機事象の視覚化
 - ⑤東京大学大学院修了
- 高齢化社会における都市環境のあり方などを、空間情報を活用して探求中。高齢化とコロナ禍による人々の行動変化に直面する社会で、空間情報の重要性はさらに高まる。

<一言コメント>

位置や場所を示す**地理的空間情報**を用いることで、都市計画から医療まで多岐にわたる分野で社会課題の解決につなげていきます。

情報工学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

加藤 諒 (カトウ リョウ) **ビッグデータを活用し、“便利さ”を創るための基礎**



- ①工学部 情報工学科
- ②専任講師
- ③博士 (情報学)
- ④Web情報学/データマイニング、知覚情報処理、画像処理
- ⑤関西大学大学院修了

SNSユーザーの行動・属性分析、構造物の維持管理、ARアプリなど、データマイニングを応用する技術は幅広く、来るべきSociety5.0時代に必須な重要テーマを専門としている。

<一言コメント>

世に氾濫する膨大なデータから役立つものをいかに収集・整理・分析するかは、超スマート社会において大変重要な役割を担っています。

杉浦 昌 (スギウラ マサシ) **組織のセキュリティ対策のエキスパート**



- ①工学部 情報工学科
- ②教授
- ③博士 (工学)
- ④情報セキュリティ、情報ネットワーク、通信工学/
組織のセキュリティ対策、セキュリティマネジメント、セキュリティ認証
- ⑤電気通信大学修了

セキュリティマネジメントを専門とし、**長く民間企業や国・官公庁のセキュリティ対策に従事**してきた。特に組織のセキュリティ対策や、官公庁のセキュリティ関連のさまざまな委員会活動、**セキュリティの国際標準規格の作成や、それに基づいた認証制度の立ち上げと推進**に携わるなど、多彩な経験がある。

<一言コメント>

情報セキュリティ対策は、技術的な方策だけでは限界があります。
 技術だけでなく人も組織も含めた「情報セキュリティマネジメント」の重要性が、昨今高まっています。

建築

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

鈴木 克彦（スズキ カツヒコ） 社会問題化する住環境の研究、社会活動



- ①工学部 建築デザイン学科
- ②教授（一級建築士、インテリアプランナー）
- ③博士（工学）
- ④住環境計画／持続可能な住環境、団地再生、空き家活用、コミュニティ再生
- ⑤大阪大学大学院修了
 社会問題化している空き家や高齢者の団地の再生・利活用、郊外住宅地のコミュニティ再生に尽力。また分譲マンションの管理不全化防止対策について学際的に取り組んでいる。

<一言コメント>

誰にも身近な住環境問題は、**景観・環境・経済・コミュニティ・文化**など多様な側面と関連があります。その多面性を大事にしながら研究と社会活動を進めています。

松本 正富（マツモト マサトミ） 人にやさしい住宅のデザイン・居住環境



- ①工学部 建築デザイン学科
- ②教授（一級建築士、インテリアコーディネーター）
- ③博士（工学）
- ④建築計画、建築デザイン／住宅設計、高齢者居住、ユニバーサルデザイン
- ⑤千葉大学大学院修了
 住宅設計の分野で多くの実績を有し、特に**現代住宅のデザイン、高齢者の居住環境、公営住宅の在り方**について研究を進めている。

<一言コメント>

建築や居住環境は、**工学的側面**だけでなく、**文化的、美学的な要素**など多方面の考察も求められる奥が深い世界です。

防災・減災

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

荻原 彰（オギハラ アキラ）川単独ではなく流域で考える「流域治水」による防災減災



①発達教育学部 児童教育学科

②教授

③博士（学校教育学）

④理科教育学／

地学教育、環境教育、自然災害教育

⑤上越教育大学大学院修了

川を川単独でなく流域でとらえる考え方、流域を単位として治水をとらえる
流域治水の考え方を教育の中に広げる研究を行っている。

<一言コメント>

温暖化により自然災害が激化している現在、災害対応は行政だけに任せるものでなく、
行政・教育機関・研究者・市民等が協力して防災・減災に取り組むことが大切です。

看護

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

川村 晃右 (カワムラ コウスケ) 加熱式タバコの影響を研究



- ①看護学部 看護学科
- ②准教授 (看護師、保健師、公認心理師)
- ③博士 (保健看護学)
- ④精神看護学、衛生学/加熱式タバコの影響、ニコチン依存
- ⑤和歌山県立医科大学大学院修了

社会的に定着してきている**加熱式タバコ**であるが、紙巻タバコから移行した場合の健康への影響についてを検証した報告はほとんどない。加熱式タバコを含む受動喫煙対策に関する研究を急務として探究している。

<一言コメント>

改正健康増進法により、多数の者が利用する施設のほとんどが禁煙となりました。望まない受動喫煙防止を図るための研究を進めています。

野島 敬祐 (ノジマ ケイスケ) 高度医療人材育成のためのシミュレーション教育



- ①看護学部 看護学科
- ②准教授
- ③博士 (看護学)
- ④シミュレーション教育学、救急看護学、災害看護学/
シミュレーション教育、アクティブラーニング、トリアージ
- ⑤大阪府立大学大学院修了

学生が「効果的に楽しく学べる」をテーマとした教育方法について研究・実践している。学生が主体的に学べるシミュレーション教育を活用した授業や演習づくりについて探求している。

<一言コメント>

高度医療人材育成を目指したシミュレーション教育について焦点をあてています。

心理

①所属 ②職名 ③学位 ④専門／研究キーワード ⑤プロフィール

濱田 智崇（ハマダ トモタカ） 日本初の男性のための電話相談開設



- ①総合心理学部 総合心理学科
- ②准教授
- ③修士（文学）
- ④臨床心理学／男性の生きづらさ、男性の介護・ジェンダー、DV
- ⑤甲南大学大学院修了

日本で初めて、男性による男性のための電話相談室を開設し、25年にわたって男性の心理的支援活動を実施。現代社会における男性の生きづらさの軽減をめざして研究・実践を行っている。

編著書に「男性は何をどう悩むのか—男性専用相談窓口から見る心理と支援」（2018年 ミネルヴァ書房）。

<一言コメント>

男性のジェンダーに着目した研究や実践は、あまり例が多くない中、男性の結婚・子育て・介護など様々なテーマでコメントすることができます。

大久保 千恵（オクボ チエ） 人が健やかに幸福に過ごすための心理学



- ①総合心理学部 総合心理学科
- ②教授
- ③修士（社会健康医学）
- ④臨床心理学 臨床発達心理学 社会精神医学／
発達障害、こどもからおとなまでのこころの問題、メンタルヘルス・リテラシー、
ストレスや発達障害とバイオマーカー、子育て支援
- ⑤京都大学大学院修了

こころの問題や発達上の特性を抱えている方への心理的ケアや子育て支援などに携わる中で**予防に努めることの必要性**を感じ、こころの健康増進や発達上の問題についての支援に関わる研究を行っている。**若者の自死予防活動**にも関わる。

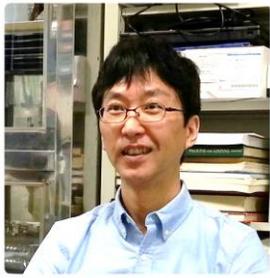
<一言コメント>

心理的支援は、悩み事を抱える方に対して提供することが可能ですが、みなさんが**健やかに幸福に過ごすことのお手伝いとして提供**することも大事であると考えています。

理学療法

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

崎田 正博 (サキタ マサヒロ) 毛細血管研究で健康長寿に貢献



- ①健康科学部 理学療法学科 (理学療法教育研修センター長)
- ②教授 (理学療法士)
- ③博士 (人間環境学)
- ④神経科学/加齢・老化、フレイル、アンチエイジング、毛細血管退行
- ⑤九州大学大学院修了

神経や筋肉、毛細血管の老化に伴う委縮・変性について研究しており、その結果、**神経線維、筋肉繊維の前に毛細血管の衰えが先行することを明らかにした**。このメカニズムをさらに研究することで、健康寿命の延伸を企図している。

<一言コメント>

研究をさらに進めて**神経や筋肉の老化を抑制できれば、さらに健康長寿化に貢献できる**と思います。

兒玉 隆之 (コダマ タカユキ) 脳波研究から“こころとからだ”を解明する



- ①健康科学部 理学療法学科
- ②教授 (理学療法士)
- ③博士 (医学)
- ④リハビリテーション科学/脳波、脳認知機能、脳卒中
- ⑤久留米大学大学院修了

20年以上にわたって脳波を研究。脳卒中や脳の外傷患者向けの「**脳機能の再編成**」を目指し、**治療ツール開発や臨床研究**も行っている。また**高齢者の認知機能をカンタンにチェックできるアプリも開発中**。

<一言コメント>

入眠や覚醒に関する研究、**匂いや触感**に対する情動研究など、**企業との共同研究 (応用脳科学)** 事例も豊富です。

中野 英樹 (ナカノ ヒデキ) 健康長寿社会の実現に資する最先端の脳機能研究を展開



- ①健康科学部 理学療法学科
- ②准教授 (理学療法士)
- ③博士 (健康科学)
- ④脳科学、神経科学/ニューロリハビリテーション、脳機能、運動制御
- ⑤畿央大学大学院修了

学部・大学院・海外研究機関にてヒトの脳機能研究に従事。脳科学・神経科学の知見を基盤として、**運動・認知・精神心理機能**に関わる**脳神経活動を可視化・操作し、高齢者や脳卒中者、認知症者の健康増進**を目指している。

<一言コメント>

脳機能計測法や脳神経操作法を用いて、健康長寿社会の実現に資する**最先端の脳機能研究を世界に向けて発信**していきます。

作業療法

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

川崎 一平 (カワサキ イツペイ) 新しい地域共生の形を模索



- ①健康科学部 作業療法学科
- ②助教
- ③修士 (国際協力学)
- ④地域リハビリテーション/異世代ホームシェア、多世代交流
- ⑤東京大学大学院修了

誰もが暮らしやすい共生社会を実現できれば、**高齢者の社会的孤立、若者の貧困による就学困難**といった社会問題の解決につながる。そのために現在「異世代ホームシェア」の研究に注力。“次世代型下宿”とも呼ばれ、**多世代がWin-Winとなる新しい地域共生の形**として注目される。

<一言コメント>

日本初の官民一体型異世代ホームシェア事業「京都ソリデール」に注目しています。

原田 瞬 (ハラダ シュン) 外部専門家活用による発達障がいの子どもの支援を研究



- ①健康科学部 作業療法学科
- ②専任講師
- ③修士 (保健学)
- ④発達期作業療法学/
発達障がい 特別支援教育 作業療法
- ⑤大阪府立大学大学院修了

インクルーシブ教育が注目されているが、ひとりひとりの子どもに合わせた**教育、支援を提供するための制度や体制には課題がある**。学校教育領域においていかに**外部専門家を活用するか**について、作業療法士の立場から研究している。

<一言コメント>

神経発達症の子どものつまずきに気付き、対応することは、全ての子どもが学びやすい学校環境を創ることに繋がります。いかにして教育、福祉、医療の連携を深めていくかを考えています。

作業療法

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

平本 憲二 (ヒラモト ケンジ) 高齢化する障害者の家族間の関係を探る



①健康科学部 作業療法学科

②専任講師

③修士 (学術)

④社会福祉学、作業療法学 /

知的障害者の高齢化、成人の発達障害に対する作業療法

⑤放送大学大学院修了

中高齢期知的障害者の家族について研究を行っている。医療的ケアを必要とする中高齢期知的障害者をもつ母親ときょうだいに、インタビュー調査の協力を得て、家族と周囲の関係を研究している。**高齢化する障害者とその家族に対する社会福祉は急務の課題**と言える。

<一言コメント>

従来研究で不足しているのは、**親の役割 (特に母親のケア役割) が強調され、母親が障害のある子を抱え込むなかで、周囲との関係により家族間の問題をどのように捉えているか、その過程が殆ど検討されていない点**にあります。

救急医学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

西本 泰久 (ニシモト ヤスヒサ) 人の移動と安全を考える「旅行医学」の第一人者



- ①健康科学部 救急救命学科
 - ②教授 (医師)
 - ③博士 (医学)
 - ④救急蘇生、救急医学、心臓血管外科/旅行医学、熱中症予防、感染予防
 - ⑤大阪医科大学卒業
- 一貫して心臓血管外科、**救急医学**に携わる。特に循環器救急、心肺蘇生などに精通。現在は救護救急学会理事などを務めている。「人の移動の安全と快適性を高める」**新しい応用医学である「旅行医学」**に造詣が深い。

<一言コメント>

現在、**コロナ関連 (ワクチン接種)** や**熱中症**をテーマにした講演を医療従事者向けに多数行っています。ワクチン接種の効果や注意点、アナフィラキシーショックへの対応など、多くの人に役立つようお伝えしています。

平出 敦 (ヒライデ アツシ) 救急救命の最前線で長年にわたって活躍



- ①健康科学部 救急救命学科
- ②教授 (医師)
- ③博士 (医学)
- ④救急医学、医療社会学/高齢者の熱中症ケア、地域医療
- ⑤大阪大学卒業

医療機関のER (救急外来の初期治療) などの第一線で長く**救急医療**に携わってきて、病院外心停止、現場経験に基づいた**高齢者の潜在的な栄養障害、熱中症ケア**などに精通している。一方で**救急医を育てる医学教育**にも取り組んでおり、地域医療従事者をサポートするNPOも2019年設立。

<一言コメント>

ウイルス感染拡大にともない、地域で実技演習を中心とした**感染防護講習**や**ワクチン接種支援**を進めています。

救急医学

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

関根 和弘 (セキネ カズヒロ) 地域の防災・減災にも携わる救急救命の実践家



- ①健康科学部 救急救命学科
- ②教授
- ③博士 (救急救命学)
- ④救急救命学/プレホスピタルケア(病院前救護)、外傷初療、災害、シミュレーション教育
- ⑤国土舘大学大学院卒業
危機管理全般から外傷や災害を中心に研究を行っている。京都市や山科区との地域連携活動も学科全体で携わっており、災害への対策や防災・減災活動を進めている。

<一言コメント>

日本臨床救急医学会(評議員)、日本災害医学会(評議員)、日本救急救命学会(理事)などの学会に所属。毎日の生活の行動様式予防から受傷した際の処置まで、危機管理全般にわたり教育しています。

金澤 豊 (カナザワ ユタカ) 国内外の災害派遣のエキスパート



- ①健康科学部 救急救命学科
- ②助手
- ③学士
- ④災害看護学、国際看護学、救急救命学/
原子力災害時の救急救命士の活動、災害時における隊員(支援者)の健康調査、災害マニュアル・BCPの策定
- ⑤滋賀大学卒業
 日本DMAT(災害時派遣チーム)講師。JICA-JDR(国際緊急援助隊医療チームおよび感染症対策チーム)に所属しており、**2023年2月のトルコ地震においては、日本で初めてのWHO-EMT評価レベル2(手術・入院機能)ミッションとして活動を行った。**

<一言コメント>

日本赤十字社滋賀県支部の災害医療アドバイザーや救急法・幼児安全法、こころのケア指導員としても地域で災害・救急の普及を行っています。

臨床検査

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

藤原 麻有 (フジワラ マユ) 身近な薬剤耐性菌を解析



- ①健康科学部 臨床検査学科
- ②専任講師 (臨床検査技師)
- ③博士 (保健学)
- ④微生物検査学、細菌学/薬剤耐性菌、ワンヘルス、選択培地
- ⑤神戸大学大学院修了

世界中で問題になっている**薬剤耐性菌 (薬が効かない菌)**が、最近では**身近な生活環境からも検出**され始めている。菌の解析・調査から、誰もがアクセスできる身近な環境にどのようなリスクがあるのか、その要因を探り、解決につなげようと研究を進めている。

<一言コメント>

日常生活のすぐそばに潜んでいるリスクを調べ、薬剤耐性菌への対応に役立てたいと思います。

中村 竜也 (ナカムラ タツヤ) 世界的問題「薬剤耐性菌」を四半世紀に渡り研究



- ①健康科学部 臨床検査学科
- ②准教授
- ③博士 (保健学)
- ④微生物検査学、感染制御学/
薬剤耐性菌、バイオインフォマティクス
- ⑤大阪大学大学院にて学位取得

25年以上にわたって薬剤耐性菌を研究。現在は、ヒト・環境・動物からの薬剤耐性菌の動向調査を行っており、それらの関係性について**ゲノム解析技術を用いて研究**している。また、**薬剤耐性菌検出の迅速化に向けた試薬の開発や企業との共同研究**を行っている。

<一言コメント>

皆さんの生活する**身近なところにも抗菌薬が効かない微生物 (薬剤耐性菌)**が存在します。それらを明らかにし持続可能な社会を目指す研究をしています。

臨床検査

①所属 ②職名 ③学位 ④専門/研究キーワード ⑤プロフィール

岡田 光貴 (オカダ コウキ) 難病潰瘍性大腸炎、キノコなど食中毒の研究に挑戦



- ①健康科学部 臨床検査学科
- ②専任講師
- ③博士 (人間健康科学)
- ④一般検査学、生化学、臨床化学/
潰瘍性大腸炎、食中毒
- ⑤京都大学大学院修了

原因不明の難病である潰瘍性大腸炎を抱えた患者は年々増え続けているため、有用な検査法や治療法を開発するべく日々研究を行なっている。キノコやフグ、ジャガイモの毒成分が原因の食中毒に対する検査法の開発にも取り組んでいる。

<一言コメント>

「自身の研究を突き詰め、患者さんの健康に貢献したい！」と常々考えながら研究に取り組んでおります。

胡 迪 (コ テキ) 国内約30万人の慢性疲労患者を救う研究に取り組む



- ①健康科学部 臨床検査学科
- ②助教
- ③博士 (医学)
- ④内分泌・代謝学、医化学、分子生物学、環境生理学/
慢性疲労、神経免疫、ストレス、食欲ホルモン、血中バイオマーカー
- ⑤大阪大学大学院修了

疲労の慢性化形成メカニズムの解明に関する研究をしている。また、疲労時体内に発生する酸化ストレスが慢性化につながる可能性があるとして、酸化ストレス是正による抗疲労・抗炎症効果の研究も行う。

<一言コメント>

慢性疲労の国内患者数は約30万人、重症者はその3割とされ、寝たきりになってしまう患者もいます。多くの患者は「怠けているだけじゃないか」といった心ない言葉を浴びてきました。そんな患者たちを救うため、慢性疲労症候群形成のメカニズムを解明し、患者に根治できる治療への貢献に取り組んでいます。

京都橘大学

<https://www.tachibana-u.ac.jp/>

■ お問い合わせ先

広報課

TEL : 075-574-4112(直通)

Eメール : pub@tachibana-u.ac.jp

本学教員の情報はホームページでもご覧いただけます。

<https://kenkyu.tachibana-u.ac.jp/ktuhp/KgApp>

